

第3節 戦略プロジェクト

プロジェクトを支える大きな柱

安心と安全を与える新しい自治体運営モデル 「雲仙モデル」の確立

市民の安心と安全を与えることが行政の使命であるとの視点に立ち、効率的で開かれた自治体運営モデル「雲仙モデル」を確立します。その上で、地域における資源を最大限活用した事業の戦略的展開を図り、変化に柔軟かつ機動的に対応できる推進体制を整備するとともに、市民や各種団体等との協働を基本とした、「市民総参加のまちづくり」を推進します。

1 市民満足度の向上

市民満足度の向上の観点から、行政評価制度の導入や積極的な民間活力の活用などにより、行政運営にコスト意識等の企業感覚や競争原理の導入を図ります。また、情報ハイウェイの整備による住民情報系システムの導入などにより、窓口業務の充実とワンストップサービスの実現を図り、市民の利便性と住民サービスの向上に努めます。

2 協働のまちづくりの推進

計画の策定やその推進に当たっては、地域の人材、情報、民間活力などのあらゆる資源を活用するとともに、市民や各種団体等との協働によるまちづくりを積極的に推進し、社会の変化や市民の価値観の多様化に適切に対応します。

3 健全な行財政運営の確立

健全で持続可能な行財政運営を確立するため、住民サービスの維持・向上に努めながら、組織体制の整備、事務事業の見直し、職員の削減など、徹底した行財政改革を推進します。また、安定促進などによる税収増を図るのはもちろんのこと、遊休資産の整理活用、受益と負担の適正化、財源の拡充など健全な行財政運営に努めます。

4 柔軟で機動的な推進体制の整備

柔軟で機動的な推進体制を整備するため、部局間の連携と情報の共有、職員研修の充実等による人材の育成、危機管理体制の確立を図るとともに、国、県、他の公共機関、大学等の研究機関及び事業者等との連携に努め、課題に応じたネットワークを形成します。

5 情報公開による市民参画の推進

行政の説明責任に基づき、市報やホームページなど多様な媒体により、市民の目線に立った、市民が望む情報の提供に努めるとともに、迅速かつ積極的な情報公開を推進します。また、移動市長室や民間活力を最大限活用した官民協働の政策立案機関の設置などにより、市民の市政への参画を促進し、市民の声を市政に反映する総合的な広聴制度を構築します。

世界に誇れる雲仙市を目指して! 「キラリと光る3つの雲仙」

プロジェクト1

農業都市宣言

将来像

★未来をひらく農業日本一の「雲仙」★

1 未来へつなぐ産業の育成

- 意欲的、先進的な取り組みへの支援
アイデア提案型交付金事業
- 新たな市場への模索
※アンテナショップ・※チャレンジショップ
等の販売戦略への取り組み
- 将来を展望した農業展開の準備
農地の集積による集落営農への取り組み
- 食育との連携による地産地消の推進

2 雲仙ブランドの確立

- 高品質、高付加価値型農業の振興
棚田や湧水などの地域資源を活用した新商品の開発
- 循環型、環境保全型農業の推進
安全・安心をアピールする産地の確立
- 雲仙市独自のブランド基準等の設定
品質の均一化、他産品との差別化



3 新たな関連産業の創出

- 農水産加工産業の育成と「エタリ塩辛」「雲仙こぶ高菜」など地域特産物を活用した新たな特産品加工業の創出支援
- 地場産品を活用した食品関連産業等の誘致と地場産業との連携

プロジェクト2

観光都市宣言

将来像

★国際観光都市「雲仙」★

1 21世紀型観光への対応

- 滞在型観光の推進
体験型、保養・療養型観光への取り組み
フレッシュ、ダイエット、学術研究などの
滞在メニュー化
- 農漁業と連携したグリーンツーリズム・
ブルーツーリズムの推進
体験メニューの充実とインストラクター
の育成
- 温泉と健康、食を融合させた観光の確立
- 団塊世代へのターゲット化
長中期滞在型の勧誘

2 新しい観光資源の発掘と連携

- 地域資源の再発掘
自然や景観、歴史、文化など観光資源化とルート化
農業との連携による景観作物の観光資源化
- 観光客のニーズに合わせた観光ルート設定
産業情報支援システムを活用した情報の提供とガイドの養成
- スポーツ交流や合宿等の誘致促進



3 国際観光への対応

- 伝統、自然、文化を生かした観光
- 案内板、パンフレット等の整備促進
- 国外観光都市等との姉妹都市縁組や提携、連携

プロジェクト3

健康都市宣言

将来像

★いのち輝く健康づくり日本一の「雲仙」★

1 健康寿命を延ばす環境づくり

●各種健康診査等の推進

受診率向上による疾患等の早期発見と早期治療、健康への意識高揚

●ホームドクターの普及推進

かかりつけ医による相談体制の確立

●温泉活用の健康、療養事業の推進、予防医学への取り組み

※クオリティ・オブ・ライフの向上

●食育の推進

健全な心身をはぐくむ環境づくり

2 運動による健康維持の推進

●総合型地域スポーツクラブの推進

年齢や体力等に応じて選択できるスポーツ活動の体制整備

●スポーツ活動の日常化の促進

市民運動会開催等による交流と啓発、ウォーキングや軽スポーツの普及推進

3 自助・共助・公助、福祉のまちづくり

●地域福祉の推進

自治会や関係機関による※地域福祉連合会の設置
地域福祉活動の推進など、総合的な地域力の強化

●地域での子育て支援

公共施設を活用した育児サポート体制の整備
地域での遊び場と子ども達を見守る目の確保



第4節

地域別振興計画

雲仙市は、「国見地域」「瑞穂地域」「吾妻地域」「愛野地域」「千々石地域」「小浜地域」「南串山地域」のそれぞれの特色を持つ7つの旧町地域から成り立っています。旧町においては、それぞれの地域の個性や資源を最大限に活かしたまちづくりを進められてきましたが、各地域ごとの立地条件や自然風土、産業特色、地域資源等、あらゆる分野においてその特色を一層伸ばすとともに、地域を越えた活発な交流と幅広いネットワークを形成することが、雲仙市全体の発展へとつながるものです。

また、現実の市民生活は、それぞれの生活圏である「地域」を基本にして営まれていることから、雲仙市が「食・遊・快」の備わった生活の場として、まちの魅力を一層高めていくためには、各地域の現状を踏まえて、それぞれの地域の特色を十分に生かした個性豊かなまちづくりを進めていくことが重要となります。このため、市民のより身近な地域における主体的なまちづくりの指針として地域別計画を定め、市民の身近な地域の整備・保全などを計画的に進めるとともに、地域の個性ある発展を目指します。



国見地域振興計画

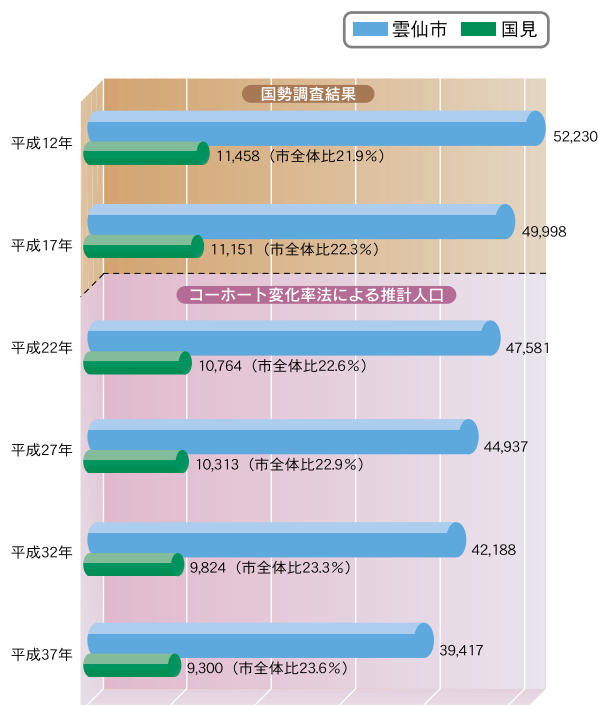
地域の現状と特性

国見地域は本市の東玄関口にあたり、島原市と隣接しています。南は雲仙岳、北は有明海に面し、普賢岳を起点として緩やかな丘陵となり、緩傾斜地が有明海に向かって扇状に展開し、水田は河川に沿って拓け、畑地は緩傾斜の丘陵に点在しています。また、長崎県と熊本県を結ぶ海の交通機関として、多比良港～長洲港間を有明フェリーが運行しています。特性として、国の重要伝統的建造物群保存地区の神代小路地区や全国規模の大会が開催可能な天然芝のサッカー場を備えた国見総合運動公園、更に県立百花台公園もあり、今後とも文化とスポーツを融合させた地域の活性化が期待されます。



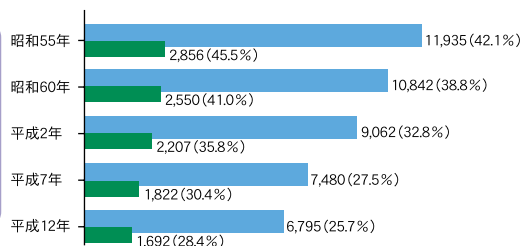
人口と産業

本地域の人口は、市全体の2割強を占め、市全域の減少率より若干緩やかに減少しています。このような中、15年後の平成32年には1万人以下になると推計されます。産業では、第1次産業の従事者減少が著しく、昭和55年から平成12年までの20年間で半数近くに減少しています。これは、漁獲量の減少や漁業後継者不足等による廃業等や、農家の離農・廃業の進展によるものです。商工業については、大きな変化はありませんが、事業所数・従業者数は徐々に減少傾向にあり、販売額・出荷額等も横這いの状況にあります。

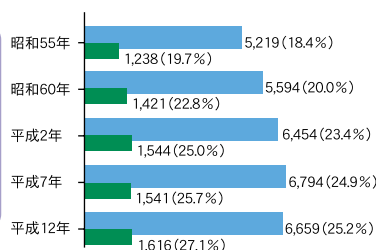


国勢調査

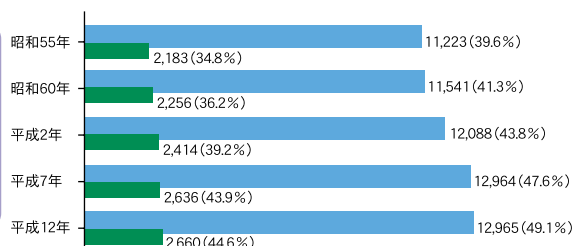
第1次産業

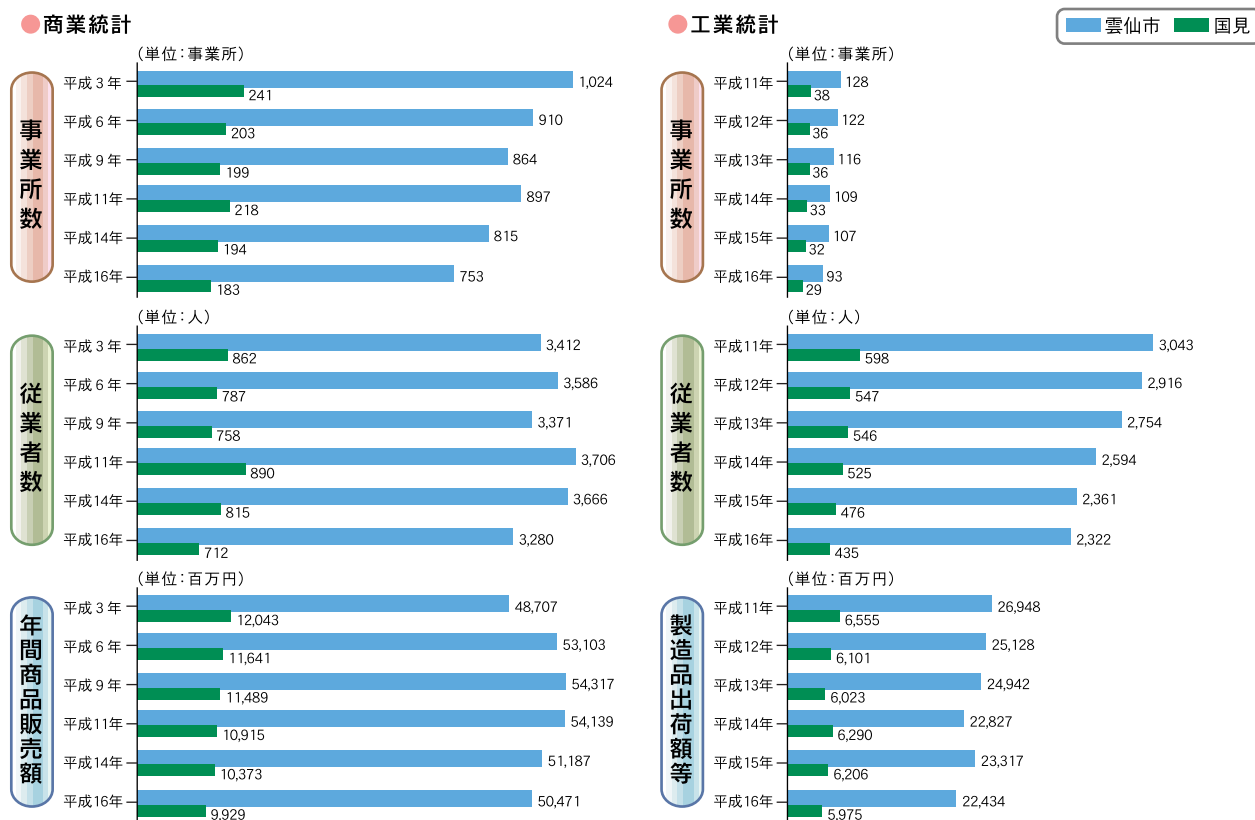


第2次産業



第3次産業





主な地域資源

本地域には、平成17年7月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された旧神代鍋島藩陣屋跡のある神代小路地区や桜の名所である淡島公園、県立百花台公園やサッカーで有名な国見高校もあります。また、天然芝のサッカー場や人口芝のテニスコート、入浴施設を備えた宿泊研修棟「遊学の館」などで構成される国見総合運動公園もあります。更に、旧石器時代から続く有史前先人の遺跡として全国的にも有名な百花台遺跡や筏遺跡、近年調査された十園遺跡をはじめ、多くの遺跡が点在しています。水産資源としては、タイラガネ(ガザミ)やアサリなどの特産品と長浜海水浴場もあり、潮干狩りシーズン、海水浴シーズン中は行楽客で賑わいます。



現在の主なプロジェクト

本地域には、重要伝統的建造物群保存地区の神代小路地区に雲仙市国見神代小路歴史文化公園を整備する計画が進められ、また交通安全確保と防災の観点から市道国見多比良土黒線浜田橋架替事業が進められています。また平成21年開催の全国育樹祭に向けて整備される県立百花台公園や神代小路地区を観光資源として活用し、交流人口の増加を図ります。

地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域でも人口の減少・高齢化が進行し、基幹産業の農業では農業従事者の高齢化と後継者不足が大きな課題となっています。農地の基盤整備や農業生産体制の環境整備が図られ、今後は認定農業者を中心に農地の集約化に取り組むとともに、農業生産団体の育成や法人化を推進する必要があります。併せて新規就農者の育成や地産地消による農産品の販路拡大等が急務となっています。また商工業では、大規模小売店舗の進出等の影響による商店街の疲弊や地元商工業者の廃業も進んでおり、特産品として新たな商品開発や地場産業の育成を図る必要があります。

まちづくりの方向性

本地域では、イチゴやメロン、花き等の施設園芸や畜産を中心とする農業と、タイラガネやアサリを中心とする漁業の振興を図るとともに、県立百花台公園や国見総合運動公園等のスポーツ施設でのスポーツ大会、「くにみの日」などのイベントの開催や神代小路地区の街なみをはじめとした歴史・文化施設を観光資源としても活用し、交流人口の増加を図り、地域の活性化に努めます。また、この他、県による埋立事業が進められ、その活用に期待が寄せられています。観光土産品としては、蒲鉾・菓子等の特産品の販売拡大や新たな特産品の開発等に取り組み、産業の活性化を図ると共に、美しい自然と街なみを生かしながら、活力と魅力に溢れたまちづくりを進めます。

瑞穂地域振興計画

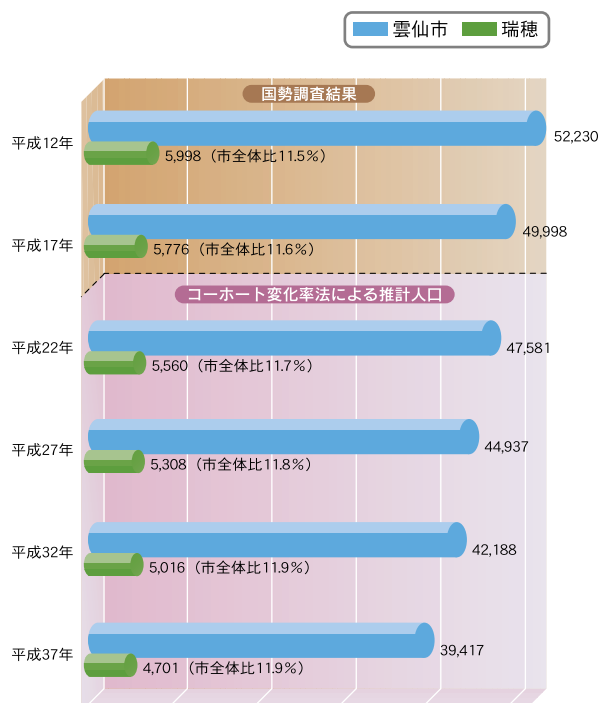
地域の現状と特性

瑞穂地域は本市の北東部に位置し、農業が基幹産業で、雲仙岳から有明海に向かって緩やかに傾斜する半扇形に広がった畑作地帯と、西郷デルタに代表される海岸部の水田地帯に分けられます。中でも中山間地域の畑作地帯では馬鈴薯などの野菜類やカーネーションなどの花き類、雲仙茶、酪農、肥育牛や養豚などが、また西郷デルタほか水田地帯では水稻やイチゴなど施設野菜類の栽培が広く盛んに行われています。特性として、中山間地には自然美溢れる景勝地として、県の新観光百選にも選定された「岩戸神社」があり、またグリーンツーリズムを目的とした「みずほの森公園」や農村公園「水車の郷」などもあります。また有明海に面してみずほ温泉「千年の湯」や宿泊施設「ふれあい会館」を中心とした「みずほすこやかランド」があり、地域の活性化が期待されています。



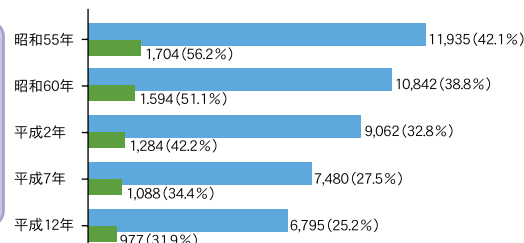
人口と産業

本地域の人口は、市全域の減少率より若干緩やかに減少しています。このような中、20年後の平成37年には5千人台を割り込むと推測されます。産業では、第1次産業従事者が昭和55年から平成12年までの20年間で約半数に減少していますが、第2次産業、第3次産業従事者については逆に1.5倍強に増加しています。これは交通インフラ整備による都市部への通勤が容易になり、兼業農家が増えたこと、また後継者不足、高齢化による離農や廃業が影響したものと思われます。商工業では、事業所数・従業者数の減少とともに販売額・出荷額等も減少傾向にあります。

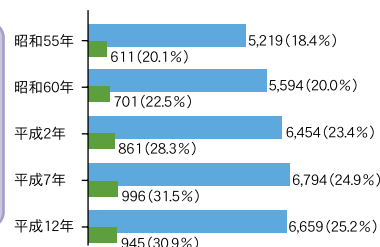


国勢調査

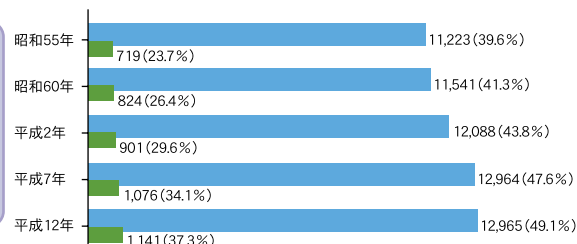
第1次産業



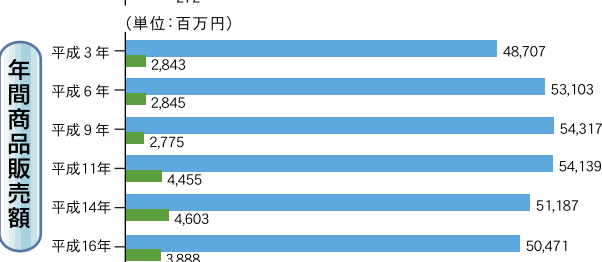
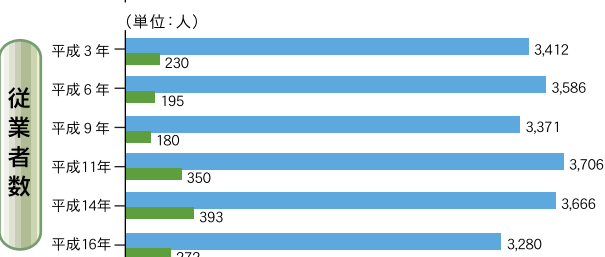
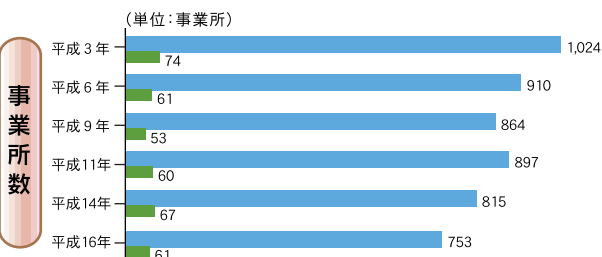
第2次産業



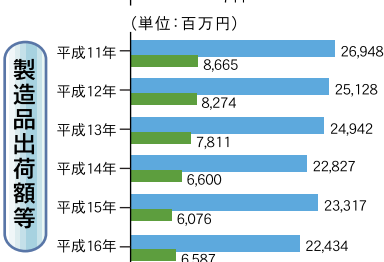
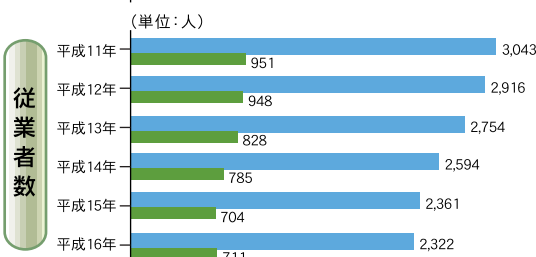
第3次産業



● 商業統計



● 工業統計



主な地域資源

本地域には、「美人の湯」と好評を博しているみずほ温泉「千年の湯」と宿泊施設「ふれあい会館」を中心とした「みずほすこやかランド」があります。中山間部にはグリーンツーリズムを目的とした「キャンプの森」、「クラフトハウス」を中心とした「みずほの森公園」があり、また岩戸湧水の水を利用した農村公園「水車の郷」や、樹齢数百年の杉木立の参道の奥には自然美溢れる景勝地として県の新観光百選にも選定された「岩戸神社」があります。また豊富な農水産物の中で、雲仙茶やアサリ、養殖カキなどがあります。



現在の主なプロジェクト

本地域では、自然環境と調和したまちづくりを目指して、環境に対する住民意識の高揚を図り、生活雑排水などの水質浄化対策として特定環境保全公共下水道事業等を計画的に実施し、総合的な環境整備を図ります。基幹産業の農業分野では水田の大規模基盤整備事業等が実施されており、生産体制の充実が図られます。

地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域でも人口減少・高齢化が進み、産業分野では農業従事者の高齢化と後継者不足、併せて農地の荒廃が大きな課題であります。イベント等を実施して農産物をはじめとした地場産品の育成、PR等に努めていますが、今後更に進行する農業のグローバル化に対応していく必要があります。商工業では誘致企業等の規模縮小や撤退など厳しい状況の中、企業留置、企業誘致に努め、雇用対策を図る必要があります。環境面では、自然環境と調和したまちづくりを進めるため、公共下水道等の総合的な環境整備が必要となります。

まちづくりの方向性

本地域の主要作物の一つである水稻は、豊かな岩戸湧水に育まれた「西郷米」として広く知れ渡っています。またカーネーション等の花き栽培も盛んで、イチゴ、雲仙茶等も県内上位の生産地として産地化しています。これらの優良特産品の他、野菜や果樹等の露地栽培、施設園芸、そして畜産を中心とした農業の振興を図ります。水産業ではアサリやカキ養殖の振興を目指します。また、グリーンツーリズムを目的とした「みずほの森公園」や農村公園「水車の郷」、そしてスポーツ合宿地として「みずほすこやかランド」を市の広域観光資源として活用し、交流人口の増加を図り、地域の活性化に努め、水と緑あふれる田園のまちづくりを推進します。また本地域では、自然に優しい、人に優しい総合的な環境整備に取り組み、自然環境と調和したまちづくりを推進します。

吾妻地域振興計画

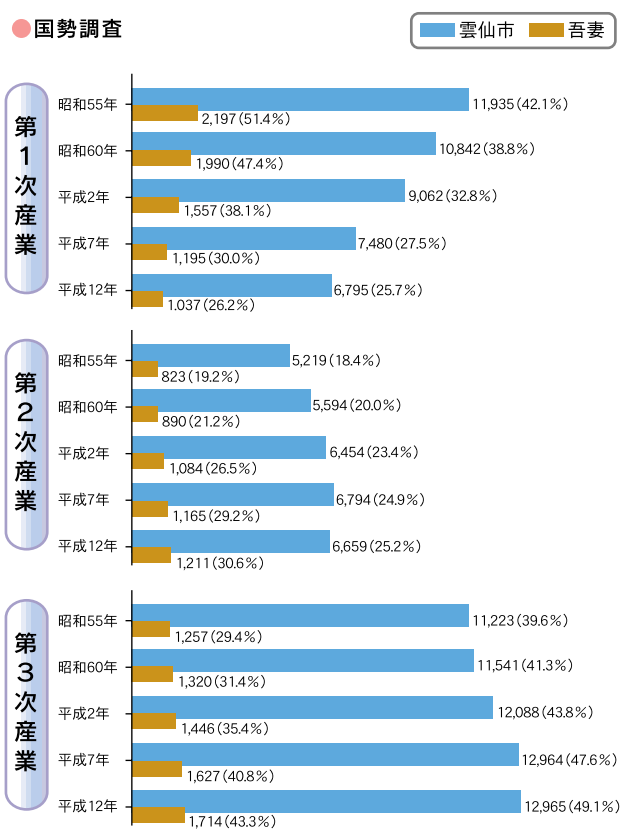
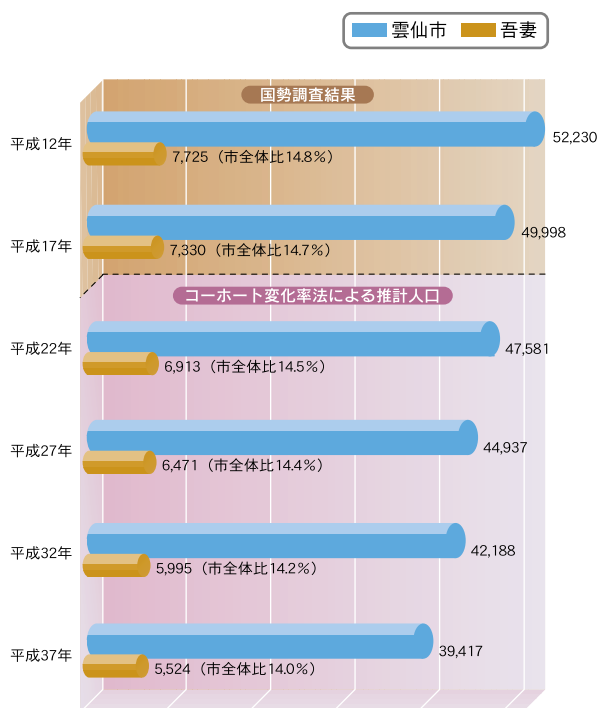
地域の現状と特性

吾妻地域は、雲仙岳から有明海に向かって北西に広がる扇状の傾斜地と平坦な台地、そして、古くから開かれた干拓地から形成されています。中山間地域から台地部には畑地が、平坦部及び干拓地には水田が拓け、地域の基幹産業である農業が展開されています。また、諫早湾干拓により、有明海に面していた海岸部分の殆どが内陸の調整池となったことにより、農地への塩害防止や大雨時の排水機能など防災機能も改善され、更に、堤防道路からの交流・物流により、地域の活性化が期待されています。

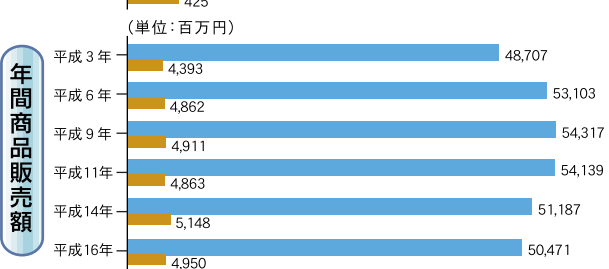
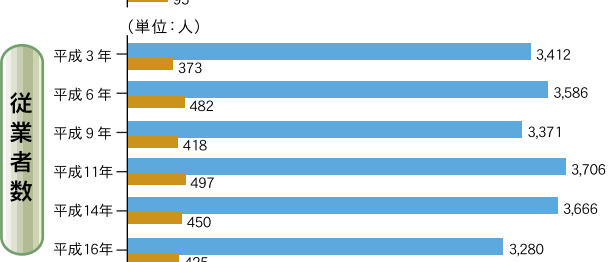
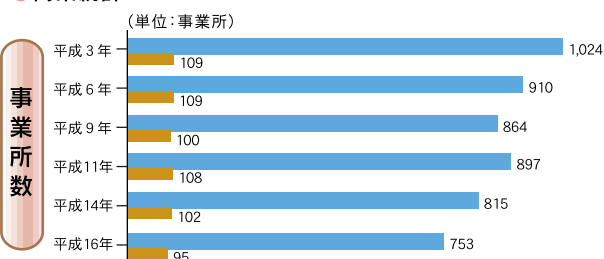


人口と産業

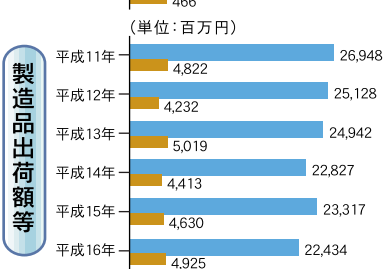
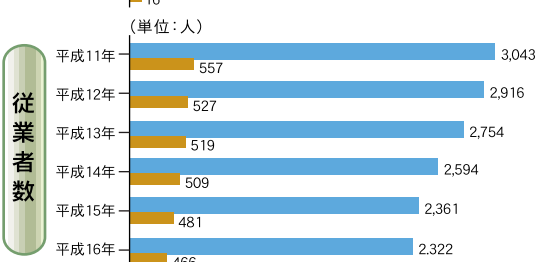
本地域の人口は、市全域の減少率より若干速く減少しており、15年後の平成32年には6千人以下になると推計されます。産業では、第1次産業従事者の減少が著しく、昭和55年から平成12年までの20年間で半数以下に減少しています。これは、諫早湾干拓による漁業者の廃業が大きな要因となりますが、農業者の離農・廃業も高い割合で進んでいます。商工業については、大きな変化はありませんが、事業所数・従業者数は徐々に減少傾向にあり、販売額・出荷額等も横這い傾向にあります。



● 商業統計



● 工業統計



主な地域資源

本地域には牧場地を公園として開放した「牧場の里あづま」や清流を活かした「溪流公園」、中世の城跡を整備した「山田城址公園」、「守山城址公園」の他、島原半島に唯一現存する前方後円墳である「大塚古墳」など、歴史上の貴重な遺跡が数多く点在しています。

また、本地域は、安心・安全の最高峰である有機野菜の産地であるとともに、ブロッコリーや良質の肥育牛などのほか、豊富な農畜産物の中には、食の世界遺産として登録された「雲仙こぶ高菜」もあり、ふるさとの味として定着した「吾妻みそ」などの農産加工品も有名です。



現在の主なプロジェクト

本地域では、住環境の整備として全域で下水道等の整備が進められています。また、基幹産業の農業分野では畑地帯の大規模な基盤整備事業が展開されており、生産体制の充実が図られます。

地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域でも人口減少・高齢化が著しく、産業分野では農業従事者の高齢化と後継者不足が大きな課題となっています。地域内の新たな雇用対策も必要で、工業団地等への早期の企業誘致、既存企業の育成や商業の活性化策など、産業面の活性化が必要です。また、整備が進む国道57号や地域高規格道路島原道路、諫早湾干拓堤防道路の開通によっては、交通の利便性が向上することにより、商業施設や企業の進出、住宅地としての開発なども予想される一方、干拓堤防により仕切られた内水面の水質悪化と埋立地を含む広大な干陸地の環境悪化も懸念されており、早期にその対策・環境整備が求められています。

まちづくりの方向性

本地域では、干拓地をはじめとする広大な農地が広がる農業地帯であり、この豊かな資源を最大限に活かしたまちづくりに取り組みます。基幹産業である農業を中心とする地域内産業の活性化と企業誘致による雇用の増大を図り、環境保全対策としての下水道整備など住環境の整備を推進します。また、地域の資源や素材を活用・連携させた観光にも取り組み、交流による活性化と定住促進を図りながら、人と自然にやさしい快適で安心安全なまちづくりを進めます。

愛野地域振興計画

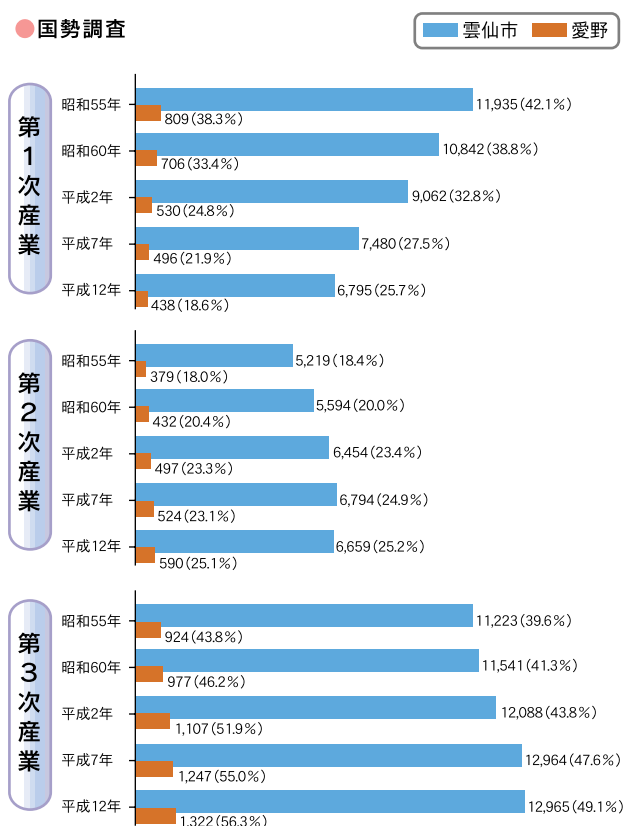
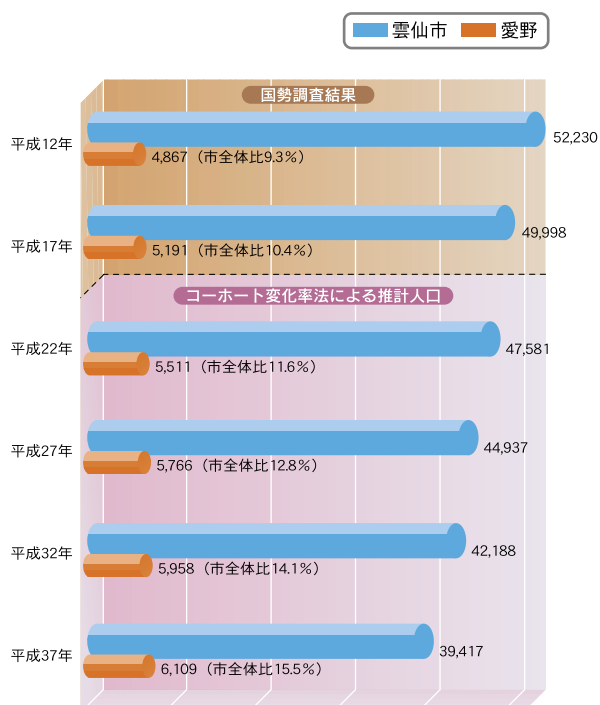
地域の現状と特性

愛野地域は本市の中央部に位置し、島原半島の陸の玄関口として古くから交通の要衝として栄え、東西に緩やかに傾斜する台地状の畑地帯と肥沃な水田地帯に分けられます。外部との交通路として、国道57号及び国道251号が長崎・大村・諫早と連携し、雲仙市を結ぶ動脈として機能しており、島原鉄道が中心部を横断し、島原半島の結節点の役割を果たしています。自然美豊かな地形は農業に適し、水稻、馬鈴薯、畜産、いちごの施設園芸などを中心とした複合経営となっています。本地域の地理的位置及び交通の利便性、上下水道の整備等により宅地開発や大型店舗、娯楽施設等の事業所進出が急速に進んでいます。

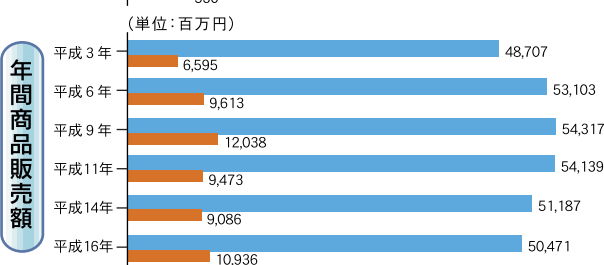
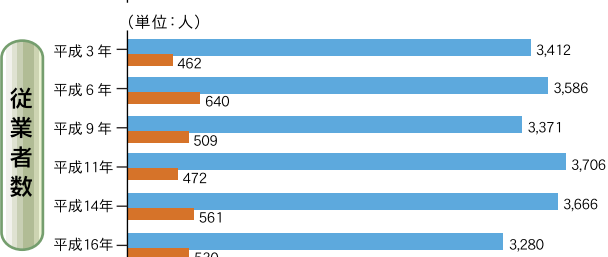
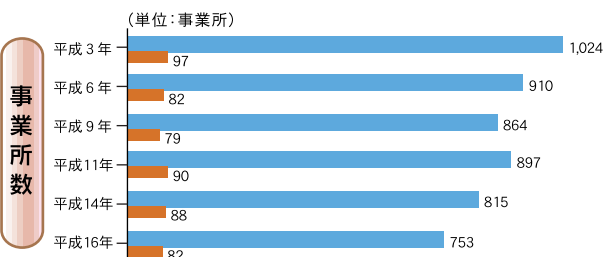


人口と産業

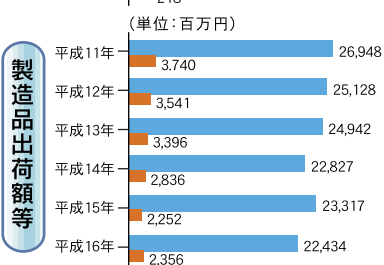
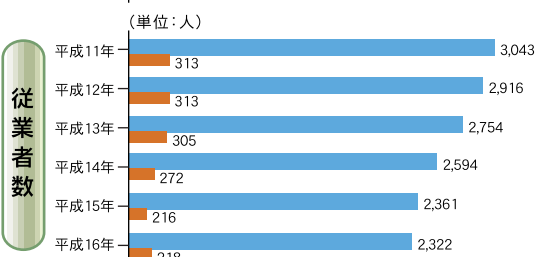
本地域の人口は、市全域が減少傾向の中で、地理的条件に恵まれ15年後の平成32年には約6千人まで増加すると予想されます。産業では、第1次産業従事者は、昭和55年から平成12年までの20年間で半数以下に減少し、第2次産業、第3次産業の従事者は、増加傾向にあります。これは車社会による交通基盤の整備が進んだことを受け、長崎市、諫早市等の都市部への通勤が容易になったことや、好立地条件により大型店舗等事業所が増加していることも影響しています。



● 商業統計



● 工業統計



主な地域資源

本地域は、長崎百景・県の新観光百選に選ばれた愛野展望台から望む雲仙岳や橘湾の素晴らしい景観が広がる優れた自然環境に恵まれ、自然美豊かな地形をなしています。島原の乱で犠牲となったキリシタン教徒らの首を葬ったと伝えられる「首塚」や六世紀の豪族の墓と言われる「一本松古墳」があります。馬鈴薯栽培においては、暖地馬鈴薯の生産団地としてその名を馳せ、赤土を利用した独特の色合いと味の良さで全国的に有名なブランドとなった「愛の小町」があります。また、地形を利用した風力発電施設もあります。



現在の主なプロジェクト

本地域では、住環境の整備と共に定住人口の増加等が期待され、その基幹道路として国道251号と雲仙グリーンロードを結ぶ縦断線道路の整備を推進しています。

地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域では、農業従事者の高齢化、後継者不足、農業所得の減少等により農業を廃止又は規模縮小する農家が多くなっています。また、本地域は、島原半島の交通の要衝であるため交通渋滞の緩和対策と併せて、島鉄愛野駅を中心とした公共交通拠点構想などが必要となります。それに加え、地域高規格道路島原道路なども計画されており、国道57号を含めて道路網等交通インフラが整備されることに伴い住宅用地、商業用地、農地の調和が取れた環境づくりが必須になります。

まちづくりの方向性

本地域では、水田地帯では水稻が作付けされ、国道57号と251号に囲まれた区域では馬鈴薯団地が広がり、住宅地と農地が混在しているため、担い手農家に農地の集積を図り、農業と融合した魅力ある田園都市型のまちづくりを推進します。また本地域は市内で唯一人口増加を示しており、更に人口増加が見込まれ、「雲仙市」の中央地区として市発展の牽引的役割を担う地域として期待されています。今後、交通及び住宅、商業、公共機関の拠点として、道路・流通・公園・住宅環境などの基盤整備に取り組み、定住人口、更には交流人口の増加を図り、人の集う賑わいのあるまちづくりを進めます。

千々石地域振興計画

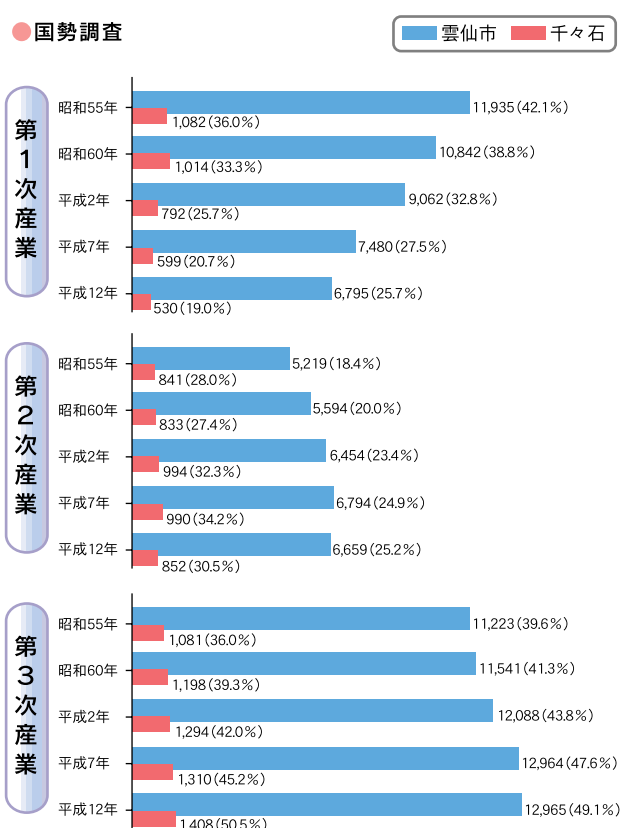
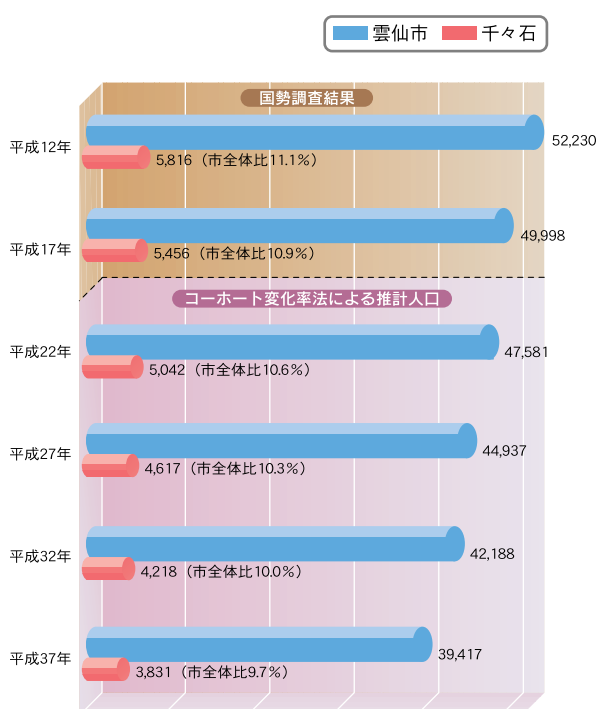
地域の現状と特性

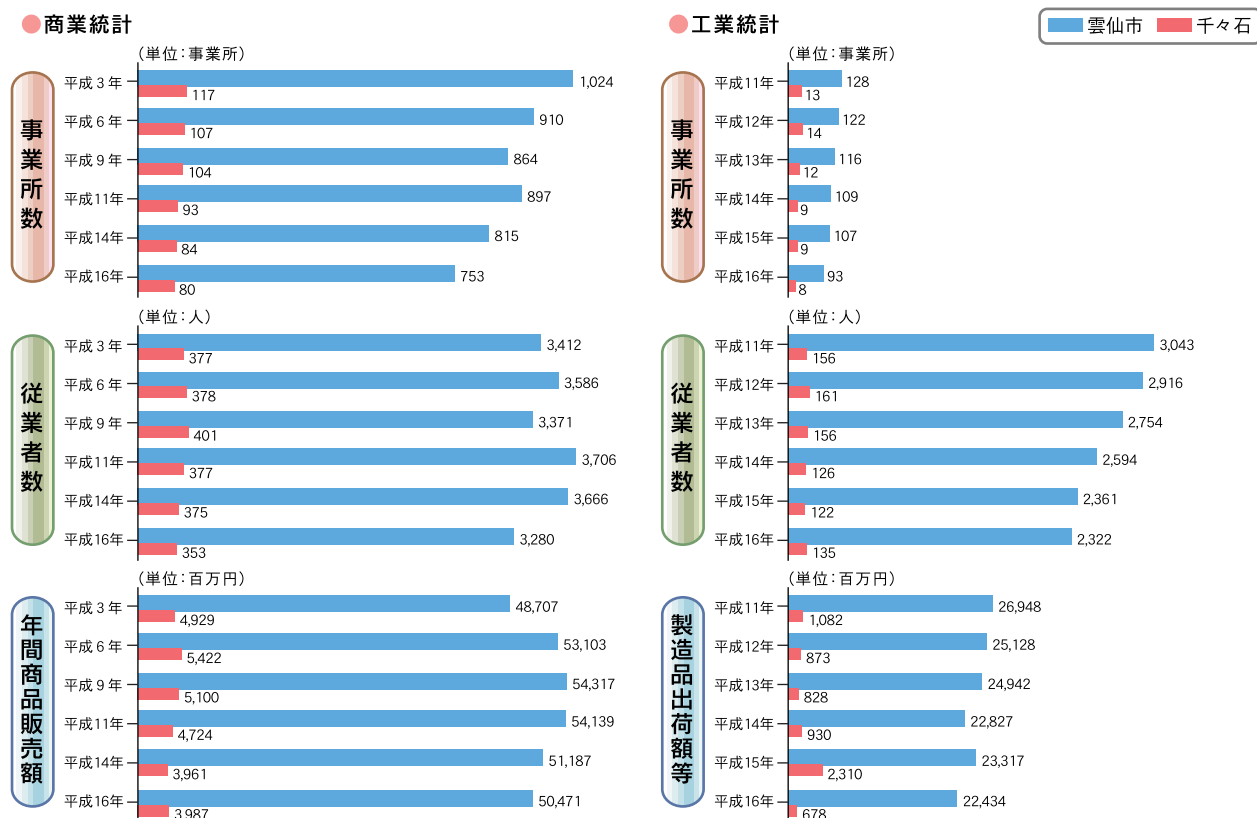
千々石地域は本市のやや中央に位置し、普賢岳から扇状に広がった水田を灌漑し流れる水量豊かな千々石川に代表されるように地域内に多数の良質な湧水があり、自然豊かな農漁村地帯であります。交通の拠点となる県央地域（諫早市、大村市）から県内有数の観光地である小浜、雲仙温泉の通過地点にあります。日本の自然百選、日本の白砂青松百選に選ばれた「千々石海岸」、日本の棚田百選に選ばれた「清水棚田」など風光明媚な景観を呈しています。



人口と産業

本地域の人口は、市全域の減少率より大きく、15年後の平成32年には4,500人以下になると推計されます。産業では、第1次産業従事者の減少が著しく、昭和55年から平成12年までの20年間で約半数近くに減少しています。これは、農業の離農、後継者不足による廃業、また、後継者の他産業へのシフトによることが要因と考えられます。商工業については、大きな変化はありませんが、事業所数・従業者数は徐々に減少傾向にあり、販売額・出荷額等も減少しています。





主な地域資源

本地域には、日本の自然百選、日本の白砂青松百選に選ばれた「千々石海岸」や「千々石断層」等の景勝、初詣客県内2位で桜の名所としても知られる「橘神社」があります。また日本の棚田百選に選ばれた「清水棚田」、「下峰棚田」そしてその棚田で育まれた「棚田米」があり、水量豊富な「千々石川」や「湧水」等もあります。歴史的人物では、「千々石ミゲル」、「釧雲泉」、「橘周太」などが有名です。



現在の主なプロジェクト

本地域では、豊富な湧水など地域資源の再発掘を行い、閑静を際立たせる千々石ホテル跡地を中心に田舎ならではの賑わいと潤いある田園空間の形成を進め、定住人口の増加、商店街の活性化、魅力ある地域コミュニティの醸成を図る「にぎわい・やすらぎのまちづくり推進事業」を推進しています。

地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域の人口減少・高齢化は著しく、産業分野では農業従事者の高齢化と後継者不足が大きな課題となっています。商業においても近隣の郊外型店舗の進出により商店街の衰退も否めず、雇用対策も含め新たな企業誘致、既存企業の育成や商業の活性化策など、産業面の活性化が必要です。また、国道57号の整備や地域高規格道路島原道路の整備などによって、交通の利便性が向上し、長崎市内及び県央地域の通勤圏内となり、豊富な水資源、公共下水道整備など生活基盤整備が図られ、緑豊かな住宅街を形成することも可能と言えます。

まちづくりの方向性

本地域では、「棚田米」を代表とする良質米、馬鈴薯、施設園芸、畜産を中心とした農業と、栽培漁業、養殖漁業を中心とした水産業の振興を推進します。また、本市における自然体験型観光の拠点づくりのために、河川公園、自然公園、白砂青松を活かした海浜公園の整備を進めます。更に、水源かん養及び他の地域と連携した水の有効利用を図りながら、クリーンエネルギーの普及促進等により豊かな自然環境を守り、豊富な湧水を利用した、田舎ならではの賑わいと潤いのある田園空間の形成を進めます。国道57号の拡張や地域高規格道路島原道路の整備など、県央地域への交通アクセスの利便性の向上による交流、定住人口の増加、商店街の活性化、魅力ある地域コミュニティの醸成を図り、自然と調和のとれた「にぎわいとやすらぎのまちづくり」を推進します。

小浜地域振興計画

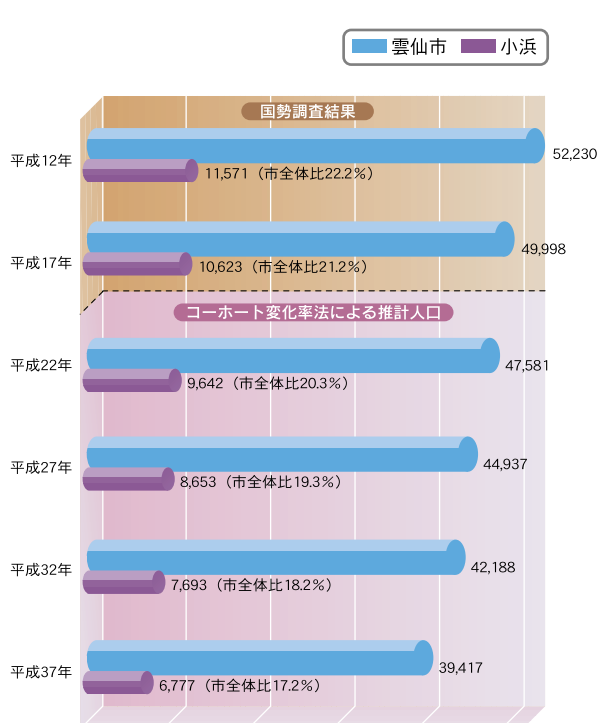
地域の現状と特性

小浜地域は本市の南部に位置し、日本の国立公園第1号に指定された雲仙国立公園(現雲仙天草国立公園)を有します。その中には、島原半島の屋根にあたる普賢岳や平成2年の噴火により誕生した日本で一番新しい山、平成新山があります。この普賢岳を要とし扇状に数条の小山脈が西部に走り、谷間の川は橘湾にそそいでいます。これらの流域には狭く細長い水田が連なり、丘陵地帯には畑地が分布しています。また、本地域には硫黄泉である「山の雲仙温泉」と塩泉である「海の小浜温泉」の2つの温泉があり、市を代表する観光地を形成しています。

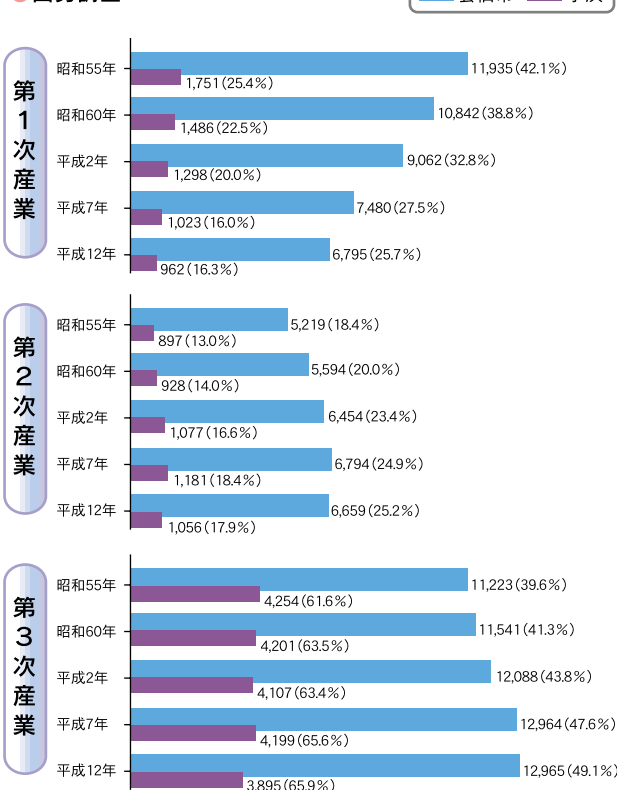


人口と産業

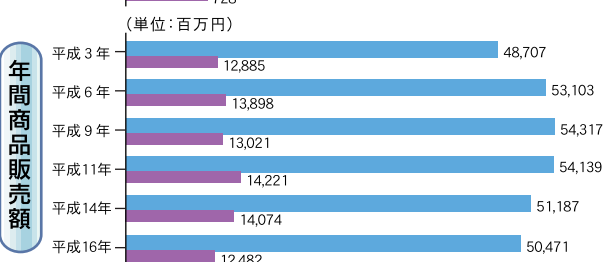
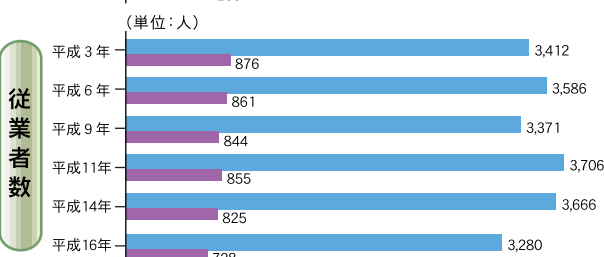
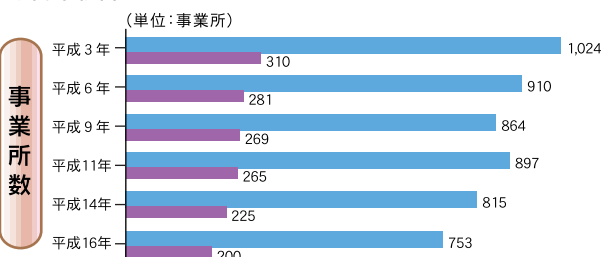
本地域の人口は、市全域の減少率より大きく、15年後の平成32年には8千人以下になると推計されます。産業では、第1次産業従事者の減少が著しく昭和55年に比較し平成12年には半数近くにまで減少しています。反面、第2次産業は増加、第3次産業では減少の傾向にあります。これは、農水産業の後継者不足による離農や他産業へのシフトと考えられます。商工業については、事業所数・従業者数は徐々に減少傾向にありますが、販売額・出荷額等は大きな変化はありません。



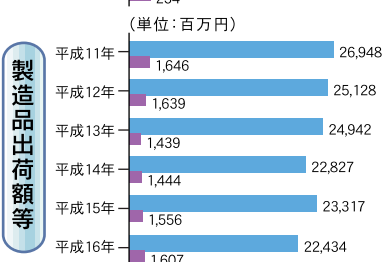
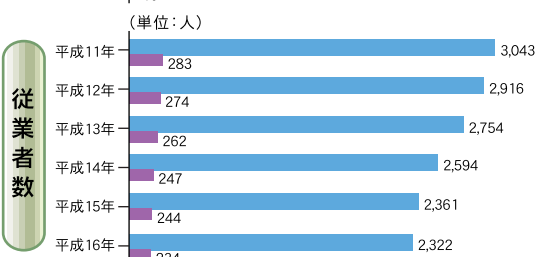
国勢調査



● 商業統計



● 工業統計



主な地域資源

本地域には、四季折々、雄大で美しい姿を見せる雲仙天草国立公園があります。明治時代より外国人の避暑地として賑わい、国際的な観光地として歴史と湯のぬくもりを感じさせる「雲仙温泉」には、日本初のパブリックコースである「雲仙ゴルフ場」があります。また橘湾に沈む夕日の美しさを眺め、潮風と湯けむりを楽しむことのできる「小浜温泉」には、県内唯一の公認である「雲仙・小浜マラソンコース」があります。

毎年4月には、「湯まつり」と併せて、新作花火の「全九州花火師競技大会」が開催されます。

特産品としては、温泉タマゴや湯煎餅、馬鈴薯、橘湾で獲れる新鮮な魚貝類、小浜ちゃんぽん等が有名です。



現在の主なプロジェクト

本地域の小浜地区では、高齢者と障害者に優しい「こころポカポカ小浜温泉」を目指した「ショッピングモビリティ」等が展開されています。雲仙地区では、各種イベントや人材育成により、雲仙温泉ブランドの確立を目指し、雲仙温泉の歴史とロマン、そして自然の魅力を発揮できるまちづくりを推進しています。

地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域の人口減少・高齢化は著しく、観光産業も普賢岳災害以降低迷しているため、雲仙・小浜の温泉街、商店街における観光産業の振興や観光客誘致に向けた取り組みが急務であります。水産業においては、橘湾沿岸の磯焼け等による漁獲量の減少とともに、農業においても、後継者不足や価格の低迷等が課題となっています。交通アクセス面では、愛野から小浜間が国道57号のみであるため、交通の利便性向上が必要であります。

まちづくりの方向性

本地域は日本有数の温泉郷として、「海の温泉」、「山の温泉」それぞれの温泉街の魅力ある観光地づくりや特色ある商店街、街なみづくりに取り組むとともに、市内各地域と連携し、観光客誘致を図ります。また、雲仙・小浜温泉におけるホテル旅館等を活用した市内の観光資源の情報発信と市の農林水産物の地産地消を推進し、相互連携による「雲仙ブランド化」も併せて推進します。農業では、基幹作物である馬鈴薯等露地野菜栽培や施設園芸など農業振興を図り、水産業では、養殖漁業や栽培漁業の振興を図ります。更に、各地域から「雲仙温泉」、「小浜温泉」へのアクセス道路の整備を進め、観光地としてのイメージアップを図ります。

南串山地域振興計画

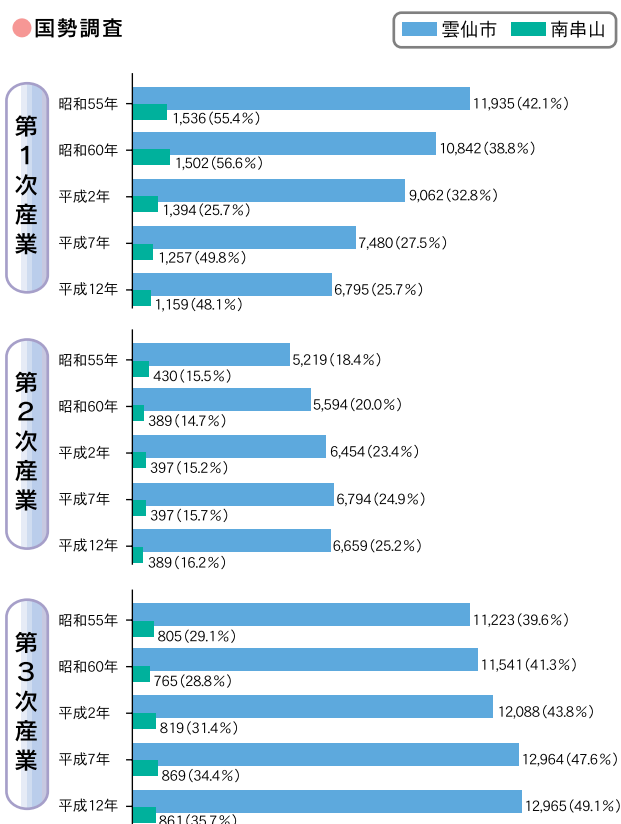
地域の現状と特性

南串山地域は本市の南端に位置し、南島原市と隣接しており、雲仙岳から広がるなだらかな丘陵、磯浜が長く続く美しい海岸線、川の流域には棚田が広がり、丘陵の斜面には耕地が並び棚畑を形成しています。この美しい風景の中で展開される農業は、露地野菜の栽培を中心に営まれています。また出作による積極的な規模拡大を図るなど耕作意欲に富み、地域の基幹産業となっています。水産業は橘湾の恵まれた水産資源により豊富な魚種が水揚げされ、栽培漁業も盛んに行われ、一方、東シナ海や三陸沖、北海道まで出漁し、大目流し網漁業も盛んに行われています。

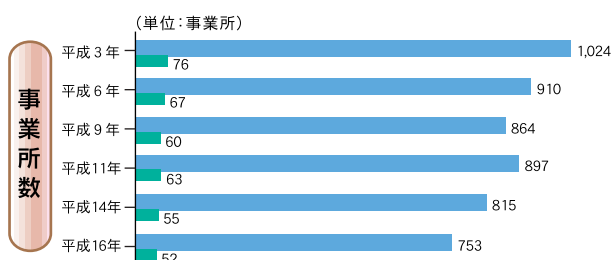


人口と産業

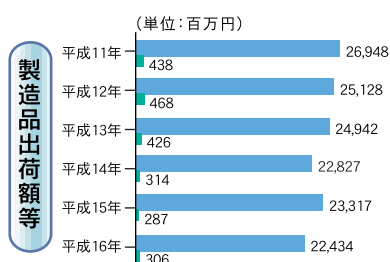
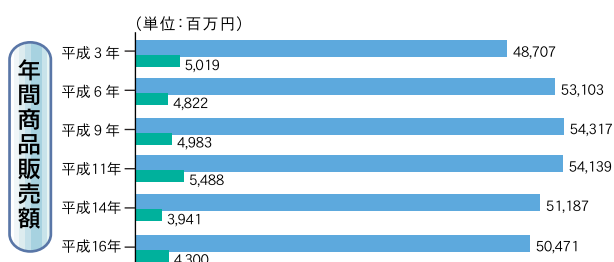
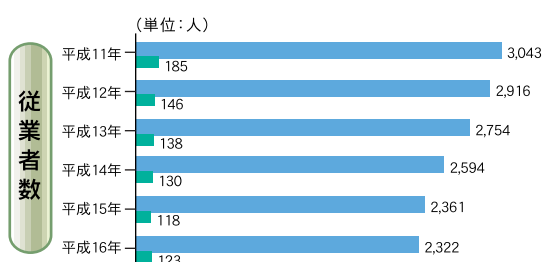
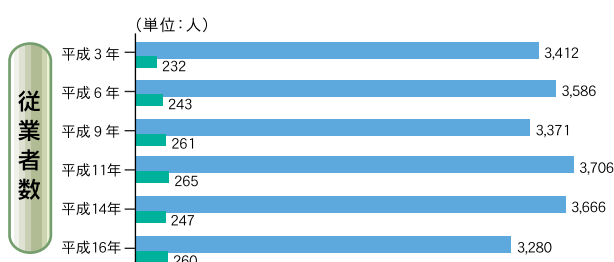
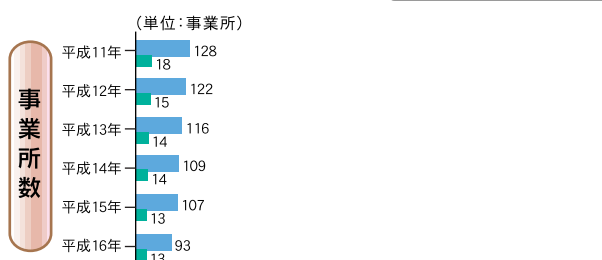
本地域の人口は、市全域の減少率より大きく、15年後の平成32年には3,500人以下になると推計されます。しかし、産業では、後継者が多いことなどにより第1次産業従事者の減少率が緩やかです。そして2005年農林業センサスでは、500万円以上の農産物販売額を有する経営体が72%で、市平均の32%を大きく上回っていることが特徴です。第2次、第3次産業従事者数はほぼ横ばい傾向にあり、商工業については、事業所数や販売額・出荷額等は減少傾向にあります。



● 商業統計



● 工業統計



主な地域資源

本地域には、リゾート地のプライベートビーチを思わせる青い海、亜熱帯植物、大自然を満喫できる「県立自然公園国崎半島」があり、新しい観光・フोटスポットになりつつある「棚田、段々畑の景観」もあります。特産品では煮干しの加工品や、食の世界遺産として登録された「エタリ」の塩辛」もあります。

現在の主なプロジェクト

本地域では、丘陵地の段々畑における露地野菜栽培の省力化による労働生産性の向上を図るため、溜水・妙見、鬼池地区の県営畑総事業や池崎地区の団体営基盤整備促進事業などの圃場整備が行われ、それと併せて農道や防火水槽など総合的に整備を行う農村振興総合整備事業が実施されています。



地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域では人口減少・高齢化が進んでいるものの、産業分野では他地域と比較して農水産業の後継者が多く、専業農家率も高く、経営規模の拡大も進んでいます。しかしながら、農業においては基盤整備の遅れ、価格の低迷、地下水や河川の汚染など課題があり、水産業においては橘湾沿岸の磯焼けなど自然環境の変化による漁獲量の減少、価格の低迷が課題となっております。今後は、農水産業における新鮮で豊富な資源を活かした自然にやさしい加工品づくりなどに取り組む必要があります。

まちづくりの方向性

本地域では、馬鈴薯やレタス、カボチャ等の露地野菜栽培を中心とした環境保全型農業や養殖漁業を含めた資源管理型漁業の振興を図ります。農水産業の^{*}1.5次産業化への展開を推進し、煮干しやエタリの塩辛等を代表とする加工品の商品化により、本市食文化の拠点づくりに取り組みます。また、国崎半島は本市の広域観光におけるブルーツーリズムの拠点の一つとして、ハマユリックスホールは本市の文化、教養の拠点の一つとして活用します。そして、他地域と連携した水資源の確保に努めるとともに、環境浄化を推進し、道路網の整備を進め、交通アクセスの改善に努め、生活環境整備の充実を図ります。